

Physician Assistant 発展の歴史

遠藤玲奈 慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科
2008 年度修士論文 p.15 - 17 より抜粋・改変

年	出来事	
1942	ジョージア州 Emory 大学医学部長の Eugene Stead, Jr が、軍医養成のために医師を 3 年間で短期育成するプログラムを開発する。現役医師が不在の間、Emory 大学と Grady 病院は医学部の学生と研修医によって運営されることとなる。	第 2 次 世界大戦 (1939-1945)、 朝鮮戦争 (1950-1953)
1957	看護師、Thelma Ingles が Stead と共に看護師向けの修士プログラムをノースカロライナ州 Duke 大学看護学部で始める。しかし米国看護資格認定協会 (National League for Nursing) は資格認定を承認せず。	
1959	公衆衛生局長官が医療職の不足を指摘する。	ベトナム戦争 (1959-1975)
1961	医師 Charles Hudson が米国医師会会報に、衛生兵出身の "mid-level" provider (「中間」医療職) 募集の掲載をする。	
1962	Duke 大学において、循環器内科医 Henry McIntosh が元海軍病院の衛生兵、および救急処置研修を受けた消防士を心臓カテーテルラボで医師助手として採用する。	
1964	Eugene Stead, Jr が、元衛生兵を対象に看護師研修プログラムに代わる新しい 2 年間の研修プログラムを開発する。	
	公衆衛生局の外科医 Richard A. Smith が、太平洋北西部 (ワシントン州) に配属され公衆衛生局長官から PA プログラムの開発を依頼される。医師不足地域への供給確保が目的である。	
1965	Stead, Jr の PA カリキュラムが Duke 大学で認可され、National Heart Institute (国立心臓研究所) が PA プログラムへの助成を行う。元海軍衛生兵 4 名が Duke 大学で研修を始める。	
	コロラド州 Colorado 大学で Dr. Henry Silver と看護学教員 Loretta Ford が小児へのプライマリケアが目的とした小児 Nurse Practitioner のプログラムを設置する。	
1966	Allied Health Professions Personnel Act (医療関係職人員法 : PL-751) によりプライマリケアを担う新しい医療職育成プログラム開発が推進される。	
1967	外科医 John W. Kirklin がアラバマ州の Alabama 大学で初めての Surgeon's Assistant (外科医助手) 育成プログラムを始める。	
	Duke 大学で PA プログラムの学生 3 名が卒業し、初めて PA が誕生する。	
1968	Health Manpower Act (医療労働力開発法 : PL-490) により医療提供職の育成に対し連邦政府が助成を始める。	
	American Association of Physician's Assistants (全米 PA 協会) がノースカロライナ州で設立される。	

1969	米国医師会 (American Medical Association) の Council on Health Manpower (労働力委員会) が PA の現場採用の検討を開始し、代議員会で「新しい医療職開発のガイドライン」を作成する。
	米国病院協会 (American Hospital Association) および病院評価合同委員会 (Joint Commission on Accreditation of Hospital) ^{注3} が「病院における PA の活用」について報告書を作成する。
	ワシントン州 Washington 大学で Richard Smith が PA プログラムを開始、元衛生兵を再教育する。卒業後は僻地のプライマリケア医として北西部の州に PA を配置する。
	アラバマ大学で外科医助手が卒業する。
	米国科学アカデミー (National Academy of Sciences) の医学委員会が専門性、診療範囲について PA の職種を明確に規定する。
1970	カイザー非営利総合医療団体 (Kaiser Permanente) が保健維持機構 (HMO) として初めて PA を採用する。
	PA の登録と認定資格を発行する組織がノースカロライナ州に設立される。後に全国統一認定資格組織へと発展する。
	米国医師会の代議員会が PA を公式に独立した職種として認める。
1971	米国医師会が PA の国家資格認定の検討を始める。
	米国医師会教育委員会は American Academy of Family Physicians (AAFP)、American Academy of Pediatrics (AAP)、American College of Physicians (ACP)、American Society of Internal Medicine (ASIM) と共同で PA 教育研修規定“Essentials for an Educational Program for the Assistant to the Primary Care Physician”を作成した。これが米国医師会の代議員会によって採択される。
	Comprehensive Health Manpower Training Act (医療労働力開発研修法: PL92-157) により医師の教育と PA の教育充実が推進される。
1972	米国医師会教育委員会が、1971 年の教育研修規定を評価するための PA 教育プログラム合同検討委員会 (Joint Review Committee on Educational Programs for Physician Assistants (JRC-PA)) を組織化する。
	Association of Physician Assistant Programs (APAP) が設立され、全国の PA 教育プログラムの連携が始まる。
	米国保健社会福祉省医事局がプライマリケア PA 教育プログラム開発に対し助成を始める。
	全米医師国家試験を主催する民間団体 (National Board of Medical Examiners) が認定 PA プログラム卒業生のための資格試験開発に取り組む。
1973	米国外科学会 (American College of Surgeons) が外科系医師の下で働く SA の教育研修規定“Essentials for an Educational Program for the Surgeon's Assistant”を採択する。

1974	AAPA（全米 PA 協会）が全国組織となり公的に認められる。
	米国外科学会が JRC-PA に加盟し PA 教育に参加、外科系医師の下で働く SA の新たな教育研修規定“Essentials of an Approved Educational Program for the Surgeon's Assistant”がまとまる。
1975	PA 認定国家委員会(National Commission on Certification of Physician Assistants (NCCPA))が組織される。
1976	Health Professions Assistance Act(医療職支援法：PL-94-484)により、PA の教育プログラムに対する連邦政府の財政支援が継続される。
	PA 教育プログラム合同検討委員会内のプライマリケア PA 教育検討委員会と SA の教育検討委員会が一つになる。
1977	Rural Health Clinic Services Act(地域診療所サービス法：PL95-210)により医師監督の下で働く PA および Nurse Practitioner (NP) ^{注2)} に診療報酬が支払われるようになる。
	全米 PA 協会 Research and Education Foundation(PA 基金)が組織され、PA 職の研究や PA 学生に対する奨学金について資金集めを始める。
1978	米国空軍が PA を士官として任命し始める。
	全米 PA 協会代議員会が PA 制度に関する法律制定を担う組織となる。
1979	APAP が全米 PA 協会から独立する。
1980	全米 PA 協会に政治活動委員会が組織され、連邦政府議員への支援活動を始める。
1981	HMO で働く PA が、「プライマリケア医が行う医療サービスの 79%を 50%の費用で可能である」と研究報告される。
	PA 認定国家委員会が PA の資格更新試験を開始する。
1985	全米 PA 協会の会員が 10,000 人に達する。
1986	PA の全国統一認定試験が現在の形にまとまり、認定プログラムの卒業生のみが受験可能となる。
	Omnibus Budget Reconciliation Act(PL-99-210)に基づき、全米 50 州で病院および養護施設での医療行為、手術助手業務に対し連邦政府から診療報酬、Medicare Part B が支払われるようになる。
1987	全米 50 州で僻地など医師不足地域での診療行為に対し診療報酬が認められる。これで PA の診療報酬が全て連邦議会を通過したことになる。
1990	PA 認定国家委員会が在宅受験できる PA 資格更新試験の開発を始める。
1992	カナダで PA の育成が始まる。
1993	全米 PA 協会が全米における PA 数を 26,400 人と報告する。

↓
ベトナム戦争
終了

1995	心臓血管外科 PA 協会、整形外科 PA および全米 Surgeon's Assistant 協会が合同で Surgical Physician Assistant という医学誌の発行を始める。
1996	米国医師会が全米 PA 協会を代議員会のオブザーバーとして迎える。
1997	米国 PA 協会が全米における PA 数を 28,500 人と報告し、全米 40 州、コロンビア特別区及びグアムにおいて PA による処方が可能となる。
	Balance Budget Act (財政均等法)により、PA の診療報酬が医師のそのの 85%に統一される。(それまでは病院 75%、外科手術助手 65%、養護施設 85%だった)
1999	PA 認定国家委員会が PA を対象に任意の外科能力試験を始める。
2000	PA 認定国家委員会が PA の資格更新試験および外科能力試験をオンライン化する。
2001	PA 教育プログラム協会 (Association for Physician Assistant Programs) が PA 中央出願サービス (Central Application Service for Physician Assistants) を開発し、一括して PA の受験申請を受け付ける方式を始める。
2002	英国が PA の制度化検討を始める。PA を試験導入した General Practitioner が制度化要請。
2003	テキサス州が 41 番目の州として PA のモルヒネ等の規制薬物の処方権を与える。
2004	英国の Wolverhampton 大学が PA 育成のパイロットプログラムを開始する。

出典) Duke University Medical Center Physician Assistant History Center Archives, Duke Medicine Digital Repository, Duke University Medical School PA Program, ARC-PA, NCCPA, National Health Services 各公式ウェブページ資料より作成

- 注 1) 日本においても衛生兵や医専として医師が短期に育成された。戦後は代用医師として医介補が沖縄・奄美に存在した。
- 注 2) Nurse Practitioner (NP): Advanced Practice Nurse と呼ばれる高度実践看護師の一つで看護資格を取得した後、修士課程の教育を受けて医師から独立して患者の診療行為を行うことができる職種。PA が医学系の臨床家であるのに対し、NP は看護系の臨床家と位置づけられる。
- 注 3) AHA と JCAH (ACS を創立した外科医が立ち上げた病院評価機構) は、1981 年に、American College of Physicians、American Medical Association、および Canadian Medical Association がそれぞれ独自に行っていた病院の医療評価を行う機関、と合同で現在の米国病院機能評価機構である Joint Commission on Accreditation of Healthcare Organizations を設立した。